

## 全国小学校道徳教育研究会 第44回夏季中央研修講座 参加報告

### ○ はじめに

本講座は、1日目に講演①及び模擬授業と研究協議会、2日目に講演②が行われました。授業改善の視点から日頃から優れた道徳科授業を展開されている3名の先生方に模擬授業を行っていただき、その後の研究協議会で道徳の授業づくりについて協議するという内容でした。本県は、動画配信形式で参加しました。以下にその概要を報告いたします。

1 日 時 令和6年8月1日(木)～2日(金)

2 会 場 東京都台東区立根岸小学校

### 3 内 容

#### 【1日目】

#### (1) 講演①「道徳科の授業マネジメント」～道徳科の特質を生かして～

帝京大学 教育学部 初等教育学科 教授 赤堀 博行 先生

〈 概要 〉

- 道徳教育は、「道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」であり、学習指導要領総則に示されている目標を目指して行っていく。各学校の具体的な道徳教育の重点目標を明確にし、道徳の内容との関わりを明らかにしていく。
- 各教科等の指導を通じて道徳性を養うためには、「道徳教育と各教科の目標、内容及び教材との関わり」、「学習活動や学習態度への配慮」、「教師の態度や行動による感化」の三つを視点として学校における道徳教育の全体像をつくっていく。
- 道徳科の特質として、次の四つを理解しておくことが大切である。
  - ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめる
  - ・物事を多面的・多角的に考える
  - ・自己の生き方についての考えを深める
  - ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
- 道徳科の学習指導案の作成にあたっては、ア 主題を捉えること、イ 教材からねらいを絞り込むこと、ウ 主題設定の理由では、年間指導計画における主題構成の背景を再確認し、ねらいや指導内容についての教師の捉え方、児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い、使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法などを記述することが大切である。
- 学習指導過程の構想については、中心的な学習を構想するとともに中心的な学習を支える学習を構想すること、発問の意図を再確認し自己の生き方についての考えを深める学習を構想すること、導入と終末を構想することが必要である。留意事項としては、子供がねらいとする道徳的価値を自分事として考えられる発問を構成すること、また、授業評価の視点から明確な指導観に基づいた授業展開になっていたかを評価することが挙げられる。
- 道徳の授業改善として、「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかという視

点をもつこと、道徳的価値を自分自身の視点として捉え（見方）、自分事として多面的・多角的に考える（考え方）授業になっているか振り返ることが大切である。

## （２）模擬授業 中学年分科会

授業者 世田谷区教育委員会 教育指導課教育支援員 橋本 ひろみ 先生

①主題名 友達と仲よくするよさ（Ｂ 友情、信頼）

②ねらい 友達と互いに理解し、信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てる。

③教材名 「卓球は４人まで」出典 小学校道徳 読み物資料 平成２３年文科省

### ④模擬授業の様子

○導入では、道徳的価値の理解を深めるために自分には様々な友達がいることや友達との関わり方への問題意識を高める投げ掛けをしていた。

○人間理解の発問を工夫し、友達を大切にすることの難しさを考えさせるために登場人物二人の両方の気持ちを考えさせた。二人の気持ちを対比して板書し、すれ違う二人の思いを自分事として考えさせていた。

○中心発問では、タブレットを活用し、児童の発言を分類・整理し、価値理解を深めさせていた。友達を大切にすることのよさを話し合わせるために、中心発問は「もう一度とおるを誘って一緒に遊ぼうとしたのはどのような思いからか」とし、多面的・多角的な考えを引き出していた。

○自分自身とじっくり向き合わせるためにワークシートを活用していた。記述できる児童はよいが、難しい児童には具体的な経験の有無をチェックするだけの工夫がされていた。

### ⑤講評 全国小学校道徳教育研究会 第３６代会長 針谷 寛子先生

○模擬授業を行うことで指導者は学びが得られる。子供の実態を踏まえ、指導案を作成し、職場で模擬授業を行ってほしい。

○本時の導入で、指導者の話が主題の「友達と仲良くするよさ」とややずれていた。道徳的価値と合わせていくことで児童も学びにスムーズに入っている。

○教材提示の仕方は、道徳的価値によって変わるものである。子供の期待感が保てるような提示の工夫をしていく。

○中心発問では、子供の考えを深める手法がとられていた。子供の発言への問い返しや切り返しがよく、子供達はよく考え、主題に迫っていた。子供達から出された考えをもとに構造的にまとめていた。

○ワークシートの活用は評価に生かせるものでよかった。子供の自分の経験が入っていくことが大切である。

## 【２日目】

### （１）講演②「共によりよく生きる児童を育む道徳教育」

～自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導の充実～

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

堀田 竜次 先生

〈 概要 〉

- 教育振興基本計画（令和5年6月16日：閣議決定）概要より、「道德教育の推進～よりよく生きるための基盤となる道德性を養うために～」に向けて、「特別の教科道德」を要とした道德教育を推進する。文部科学省では、道德教育アーカイブを充実させているので視聴してほしい。
- 道德教育の目標、道德性、道德教育の要である道德科、「特別の教科道德」の目標について説明があった。
- 指導の基本方針は、内面的資質としての道德性を主体的に養っていく時間であるということである。
- 考え、議論する道德については以下のようである。
  - ・考え→考える 主体的に自分との関わりで 自分の考え方、感じ方を明確にする。
  - ・議論する→多様な考え方、感じ方と出合い交流する 自分の考え方、感じ方をより明確にする。
- 道德性の捉え方は四つある。
  - ・道德的判断力（それぞれの場面で善悪を判断する能力）
  - ・道德的心情（道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情）
  - ・道德的実践意欲（道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き）
  - ・道德的態度（道德的判断力や道德的心情に裏付けられた具体的な道德的行為への身構え）
- 明確な指導の意図をもつことが大切である。そのためには、ねらいや指導内容についての教師の捉え方を明確にする、ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする、使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする必要がある。
- 指導方法の工夫について
  - ア 教材を提示する工夫
  - イ 発問の工夫
  - ウ 話し合いの工夫
  - エ 書く活動の工夫
  - オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫
  - カ 板書を生かす工夫
  - キ 説話の工夫 等
- 児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価について
  - 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点、道德的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点に着目する。個人内評価として見取り、記述により表現することを基本的な考え方とする。
- 道德科における評価は、教師の観点（教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの）と、児童生徒の視点（自ら成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの）で意義がある。つまり、「指導と評価の一体化」である。



※これらの指導方法の工夫は、児童生徒が表現しやすい状況をつくっていると  
言える。  
(学習状況の評価にも生かせる)